



2009年7月2日

「皮脂」の役割ってなに？

皮脂腺は「ぶどうの房」のような形をしています。

その中に油を約25日かけて充満させて、最後に袋が破れた液体が毛穴から皮膚表面に分泌されます。これが『皮脂』です。

そもそも、皮脂の成分は中性脂肪で、皮膚に常にいる菌によって、遊離脂肪酸に分解されます。遊離脂肪酸は皮膚の表面を弱酸性にする皮脂膜の主要成分で、雑菌の繁殖や外界からの刺激などを防いでくれます。しかし、皮脂が分泌過多になると、ニキビや「脂漏（しろろ）」の原因になります。「脂漏」とは、皮脂腺が多い毛の生え際や、胸・脇の下部に油が出すぎるためにカサブタや湿疹が出やすくなります。ニキビは皮脂が毛穴につまり、菌が感染した状態の事で、男性ホルモンの影響を受けやすいのです。

最近の研究では、「皮脂」は副腎由来のホルモンの影響を受けやすいため、生活環境やストレスなども大きな原因と考えられるようになりました。さらに、中性脂肪は糖代謝によって生まれる脂肪ですから、甘い物やパン・麺類など、炭水化物を多く摂取すると、皮脂は増えやすくなります。

漢方薬では、余分な脂肪を作らせないようなものを使います。有名な処方では、**竜胆瀉肝湯**（りゅうたんしゃかんとう）です。食生活が不規則な方には、**平胃散**（へいいさん）や**温胆湯**（うんたんとう）で体質を改善します。

【漢方薬】

竜胆瀉肝湯（りゅうたんしゃかんとう）

⇒効能：排尿痛、残尿感、頻尿、尿のにごり、陰部のカユミなどに適応します。

また、そのような症状をともなう尿道炎や膀胱炎、膣炎、子宮内膜症などにも用います。

適応症：膀胱炎、尿道炎、膣炎、子宮内膜炎など

平胃散（へいいさん）

⇒効能：体力中等度の人で、胃のつかえやもたれ、下痢などの症状がみられる場合の急性および慢性胃腸カタル、胃アトニー、消化不良、食欲不振などに用いられます。

適応症：食欲不振、慢性胃炎、急性胃炎、胃下垂、慢性胃腸カタル、胃アトニー等

温胆湯（うんたんとう）

⇒効能：胃腸が衰弱している人で、神経症や不眠症に用いられます。

適応症：神経症、不眠症など